

よびその理由(個人的理由15%, 職業的理由81%)。⑧ 女子と職業(女子を就職させる36%, 就職させない4%) ⑨ 女性の適職(洋和裁, 事務員, 理容師等) ⑩ 女性と農業(農業は女に適す59%, 適さない25%) ⑪ 職業と貴賤(なし77%, あり16%) ⑫ 農政に対する意識 ⑬ 農伝承 ⑭ この地域の職業構成(農79%)

知能発達におよぼす時代的諸条件の影響

立正学園女子短期大学 岡本 奎 六

知能発達の時代的推移を知るために, 25年間の間隔(昭9と昭34)を置いて行なわれた田中B式の10テストの換算点の比較を行なった。被験者は両実験とも大都市都心部小学4年から中学3年までのもので, 延3600人である。

後実験で低下したテストは7. 制約連合(加算能力)で算数カリキュラムの変化が主な原因か。

両実験で変らぬテストは6. 数字の異同弁別(知覚速度能) 8. 数系列(数的思考)で, 教育思潮の変化に比較的關係なもの。

後実験で向上したテストは④ 4. 置き換え, 9. 図形抹消(いずれも知覚運動速度能)で, 戦後の経験的・行動的学習形態がその原因か。⑤ 5. 図系列完成, 10. 図形完成, 2. 立方体計算(いずれも空間推理能)で, 戦後の視聴覚用具・実物教育がその原因か。

後実験がやや向上したテストは3. 図形分割, (空間推理能) 1. 迷路(空間・運動能)である。

全体的には後実験が向上しており, 知能テスト結果は, 時代的諸条件と無関係ではない。

母子家庭における人格形成について (第1報)

大阪市教育研究所 河原 政 則

母子家庭の中学生 171名に性格指導検査(正木正著)を実施した結果, 適応定型・緊張定型を示す者の比率が一般の傾向より少なく, かつ環境不適応感・自己統制感の低いものが多く認められた。これらによつて自己統制感が教育指導上の問題としてまずとらえられた。また一方等現間隔法による母に対する態度測定を756名について試みたところ, 母子家庭群と普通家庭群の間に差は認められなかった。

次により適応傾向をもつ母子と, 悪い適応傾向をもつ母子の事例に面接したところ, 前者は母子とも自己統制感が高く, 後者は低いことが了解的にとらえられた。

ここで, 母子家庭の人格形成についての教育指導上の中心の問題として, 自我の価値への係わり方, 自我に対する信頼感(自己統制感)がとりあげられ, 今後の研究の方向を求めたと考える。

家庭・学校における児童の行動の強化について の比較文化的研究

——タイと日本の比較——

北海道大学 三宅 和 夫

児童のどんな行動が, 特定の社会・文化においてよいと認められ, また悪いと禁じられているかを知ることにより, 成人のもつ社会的規範, 価値および児童の将来の

行動についての仮説をたてることができる。この研究では, 簡単な質問紙法によつて, このような問題解決への手がかりとしようとする。対象は10才前後の男女各約50名を日本, タイ両国の都市より選んだ。両国間に差の見られた主なものは, よいとみとめられることについては家庭においては, タイの方は両親の権威の受容が多く, 日本の方は, 家事に関するものが多く, 悪いということについては, タイの方は行儀, 両親への反抗などが多く, 日本の方は仕事をしないこと, きょうだいげんかなどが多い。学校においては, よいことについても, わるいことについてもタイは学習活動, 教師の権威などが, 日本は, 仲間関係, 教室の清掃が多かった。

教育的事実とは何か

——日本における教育諸科学, 特に教育心理学の基底に関連して——

東北大学 松本 金 寿

この報告は, 日本教育心理学協会会報第2号に発表した「教育心理学以前?」末尾の「教育心理学の出発的課題であるべき教育的事実とは何か」に対する解明への一端であるが, ここには主な報告事項を列挙しておくだけに止める。

I] 今日, 教育と呼ばれる諸々の事実は, 国民生活の一文脈である。

II] そして, このような意味での教育的事実は, 当然のことながら, 国民生活の土合である, その時々政治経済的な諸現実からの制約を免れ難い。

III] しかしながら, 科学としての教育は, I], II]とはおのずから別個な文脈, 即ち公共的な性格や創造的な世界史的課題をになうべきものであろう。

IV] 従つて, 我々の教育心理学も, II]のような現象論によるよりは, III]のような本質論によるべきであらう。

V] そしてまた, 真実はただ一つしかあり得ないのであるから, 我々の研究もまた, III], IV]の角度からの徹底的な追求が要請される。

VI] 現代的教育心理学界における諸々の見解や立場の相違というものは, 従つて, それぞれがV]に示したような究極点への路程標であり, 時間的序列ないしは, 層的秩序とみなすことができるであらう。

VII] しかし, 我々が現在, このような認識を共有し合えない事由の主なものは, 諸々の社会悪的諸事実に示されているような国民生活の分裂や混乱によるであらう。

VIII] このことはまた, 現代的教育心理学の根底にまつわる致命的なもの, 即ち教育的事実と教育心理学との基本的な関連性の把握と, 研究成就の為への実質的基礎——研究体制や研究生活事実等に対する内観——への省察とを一層きびしく要請するものと考えらる。

性格形成についての心理学的研究

——欧州三カ国と日本との比較研究——

九州大学 牛島 義 友

(1) 総 括

道徳教育の総合教育の一貫として人間形成に関する比較研究を行なった。このために幼児期に於ては親の育児態度, 幼稚園保育所に於ける育児環境, 幼児の人物画によ